

1 学校教育目標

進んで学ぶ人 心身を鍛える人 思いやりのある人

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○確かな学力を身に付けさせる学校 ○心身ともに健やかな生徒を育てる学校 ○生徒、保護者、地域から信頼される学校
○児童・生徒像	○目標をもち、自ら進んで学習に取り組む生徒 ○心身ともに健康で、自らの課題に一生懸命に取り組む生徒 ○礼儀や思いやりを大切にし、規律ある行動ができる生徒
○教師像	○授業改善に向け、日々研究、実践に努める教師 ○生徒一人ひとりを理解し、温かな気持ちをもって生徒の健全育成に努める教師 ○教育公務員としての自覚と誇りをもって職務に励む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

○学校について

〔良さ〕落ち着いた、和やかな雰囲気の中で日々の教育活動が行われている。

〔課題〕主体的・対話的で深い学びの実現をさらに推進する。

○生徒について

〔良さ〕素直で明るい生徒が多く、指導を受け入れ成長しようとしている。

〔課題〕自ら課題を見つけ成長するとともに、所属する集団をさらによくしていこうとする姿勢を身に付けさせる。

○教師について

〔良さ〕生徒の成長のために熱心に指導に取り組むことができる。

〔課題〕新たな教育課題に対応し、組織的な解決を推進する。

【前年度の成果と課題】

【成果】○授業に関して「理解できた」「良い雰囲気で行われていた」「充実して学ぶ楽しさを感じた」等、すべて生徒から高い評価を得ている。

○不登校生徒について、関係諸機関との連携を推進できた。

○保護者と連携し、教育活動に取り組んでいる。

【課題】○生徒が自らの課題を見つけ、自分にとって必要な学習を選び学べる力を付けさせる。

○自己肯定感をさらに育成するために、お互いを認め合える場を設定するとともに自らの役割を果たすことの大切さを理解させる。

○不登校生徒について、学校と関係諸機関とが連携してさらに指導を進める。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	健やかな身体の育成	○	○	○	○	○

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項－ 1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
自ら考え、学ぶ生徒の育成		年度末到達度確認テスト平均 正答率 65%以上 令和 4 年度区調査通過率 65% 以上		年度末到達度確認テスト平均 正答率 57.5% 令和 4 年度区調査通過率 72.3%		令和 4 年度区調査通過率は目標通過率を 7.3%上回った。年度末到達度確認テストは目 標まであと 7.5%だった。教科によるばらつ きがあるため年度内の復習に力を入れる。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	授業改善	全教員 全教科	通年	教員の授業力を向上させ、 生徒が学ぶ楽しさを感じ られる授業を目指す。 【取組内容】 ・ねらい、振り返りの確実 な定着 ・考える時間、話し合う時 間、発表する時間の設定に よる深い学びを目指す。 ・教科指導専門員等の活 用、OJT 組織の活性化	・生徒アンケ ート ・振り返りシ ート	・「授業の内容 をしっかりと理 解できた」 90% 以上 ・「授業が充実 していて、学ぶ 楽しさを感じ た」 90%以上	・「授業の内容をしっ かり理解できた」 84.6%。前年度から 7.7%減少 ・「授業が充実してい て、学ぶ楽しさを感じ た」 84.1%。前年度 から 8.9%減少	・授業がわかる、楽 しいと感じている生 徒が昨年度よりも減 少している。各教員 が授業改善に取り組 むと共に生徒との良 い人間関係づくりを する。 ・授業改善に取り組 む OJT 組織を活性化 した。	△

2 継続 (改善)	家庭学習 の充実	全生徒 全教科	通年	授業での振り返りをもと にした主体的な家庭学習 を目指す。 【取組内容】 ・理解が十分でないところ の復習 ・自分に必要な問題練習	・生徒アンケート	・「家庭学習を するときの勉強 内容、方法が わかる」70%以上	・「家庭学習をする ときの勉強内容、方法 がわかる」65.7% ・「一日平均 30 分以 上家庭学習をする」 65.3%。昨年度より 6% 上昇	・与えられた宿題だ けでなく、自分にと って必要な学習内容 や方法を選んで行お うとする生徒が増え てきた。	○
3 継続	I C T の 活用	全教員 全教科	通年	タブレットの効果的な活 用	・各教員への アンケート ・授業観察	・全教科、全教 員が月 2 回以 上活用する	・タブレットは全教 科、全教員が週 1 回 以上は活用している	・授業では十分に活 用できている。 ・家庭学習での活用 をさらに進めてい く。	◎
4 継続 (改善)	放 課 後 補 充教室	各教科の つまずき のある生 徒及び希 望生徒	通年	未習熟な学習内容の解消 【取組内容】 ・個別指導によるつまずき の解消	・区学力調査 を活用した到 達度確認テスト ・定期テスト	・年度末に行う 到達度確認テ ストで対象生 徒の正答率ア ップ	・2年生数学では顕 著に正答率がアップ した。	・学習ボランティア を活用した放課後補 充教室を実施してい る	○
5 継続	朝読書 朝学習	全生徒	毎 週 火 ～金 始 業 前 10 分	落ち着いた1日の開始 【取組内容】 ・読書 ・既習事項の反復練習	・生徒アンケ ート ・定期テスト	・「月 2 冊以上 の読書」50%以 上 ・定期テスト	・「月 2 冊以上の読 書」46.5%。昨年度よ り 3.4%上昇	・月 2 冊以上の読書 は目標まであとわず かであったが、読書 や朝学習の実施によ り落ち着いて 1 日を 開始している。	○
6 継続	サ マ ー ス クール	各教科の つまずき のある生 徒及び希 望生徒	夏 休 み 中 6 日 間	既習事項の復習 【取組内容】 ・学年全教員による個別指 導	・参加生徒へ のアンケート	・「つまずきの 解消ができた」 70%以上	・「つまずきの解消が できた」88.4%	・十分に達成できた	◎

重点的な取組事項－２		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心を耕す活動の推進		生徒アンケートで「行事や体験活動に積極的に参加し、達成感を得られた」70%以上。「思いやりをもって友人と接するように心がけた」90%以上。「学級での居心地がよく、落ち着いて生活できている」90%以上	「行事や体験活動に積極的に参加し、達成感を得られた」84.8%。前年度から15.4%上昇 「思いやりをもって友人と接するように心がけた」96.2%。前年度から2.4%上昇 「学級での居心地がよく、落ち着いて生活できている」89.2%。前年度から1.8%上昇	・行事や学級での活動をとおして達成感を得ている。また居心地のよい学級づくりや思いやりのある行動ができている	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
主体的に考え、行動できる生徒の育成	生徒アンケート	・学級、学年など自らが所属する集団をより良くするために生徒会活動等を活性化する ・行事において生徒が自ら考えて行動できる場面を設定する	・「行事や生徒会活動で自分の役割を考えて行動している」82.4%	・生徒会各種委員や行事の実行委員、班長などが中心となって集団の向上のために考え、活動できた。	○
自尊感情、自己肯定感の育成	生徒アンケート	・行事の充実と部活動の活性化 ・構成的グループエンカウターの活用	・行事や部活動への取組をとおして達成感を得ることができている ・必要に応じて構成的グループエンカウターを活用し、自尊感情を育成している	・3年ぶりに実施した行事もあったが、発達段階に応じた取組をそれぞれがすることができた	◎
思いやりのある生徒の育成	生徒アンケート	・教育活動においてお互いを認め合う活動の実践 ・道徳授業の充実	「思いやりをもって友人と接するように心がけた」96.2%。前年度から2.4%上昇 ・「自分の活動をクラスの人に認められていると感じる」72.0%。昨年度から7.2%上昇	・思いやりをもって友人と接している生徒は大変多い。お互いを認め合っていると実感する活動をさらに実践する。	◎

いじめ・不登校への対策	いじめの根絶を目指すとともに、関係諸機関との連携を図ることで不登校生徒の支援を行う	・QU調査の活用 ・特別支援委員会の充実、関係諸機関との連携 ・SNS 学校ルールの徹底	・いじめアンケートやQU 調査を活用し、いじめの迅速な解決を行った。 ・不登校生徒を関係機関と連携して支援した。	・不登校生徒が登校できなくても関係諸機関と連携することによって学校や社会との関係を保てるようにする	○
-------------	---	--	---	---	---

重点的な取組事項－３		健やかな身体の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
進んで健康な暮らしをする態度の育成		生徒アンケートの関連項目で肯定的回答 70%以上	・「食事や運動、睡眠など自分の健康に気をつけている」76.6%	・保健指導、食育とともに保健体育の授業で身体づくり運動に取り組み、健康への意識を高めている	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力づくりの習慣の定着	生徒アンケート「規則正しい生活を心がけている」80%以上。「保健体育の授業以外で身体を動かす活動をしている」80%以上。	・睡眠、食生活など身体をつくる元となる事柄についての啓発 ・体力テスト結果を活用し、日常的な身体づくり運動の指導	・「食事や運動、睡眠など自分の健康に気をつけている」76.6%	・保健体育での身体づくり運動、保健指導をとおして日頃から健康を意識した生活をさせている	◎
健康教育の推進	健康保健教育指導を年3回実施。	・小児生活習慣病検診の前後指導、歯科衛生指導の実施 ・健康診断後の受診推進	・健康保健教育指導を年3回実施できた。	・自分の健康に興味をもたせることができた。	◎
食育の推進	生徒アンケートで食への関心の向上	・SDGsへの取組をとおして食への関心を高める指導の実施 ・家庭科授業や給食時を活用した食育授業の実施	・もりもり給食週間にSDGsと関連付けた献立を提供したり、給食だよりをとおして啓発活動をした。	・残菜率が平成31年度6.5%、令和2年度5.9%、令和3年度4.9%、今年度3.3%と減少している。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力向上アクションプラン

- 【成果】○授業改善に取り組む OJT 組織を活性化できた。
○ICT 機器を全教科の教員がほぼ毎時間活用できた。

【課題及び解決の方向性】

- 授業に関して前年度から「理解できた」7.7%、「充実していて学ぶ楽しさを感じた」8.9%減少している。各教員が授業改善に取り組むと共に、生徒との良い人間関係を構築することによって充実した授業づくりをする。

重点的な取組事項－2 豊かな心の育成

- 【成果】○思いやりや学級での居心地、落ち着いた生活について肯定的に捉えている生徒が前年度に比べ 1%以上増加した。
○行事や体験活動をとおして達成感を得た生徒が前年度に比べ 15.4%増加した。

【課題及び解決の方向性】

- 不登校生徒を減少させることが依然としてできていない。しかしほとんどを関係諸機関のいずれかと連携して支援する方向性ができている。
登校できなくても、学校や社会との関係を保てるように指導を継続する。

重点的な取組事項－3 健やかな身体の育成

- 【成果】○自分の健康に気をつけている生徒が 76.6%であり、日頃から食事や運動、睡眠などに興味を持って生活させることができるようになった。

【課題及び解決の方向性】

- 健康への興味は高まっているが、デジタル機器の使用時間が非常に長い生徒もいる。SNS ルールと合わせ、適切な使用方法、使用時間についても考えさせていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

日頃の学校生活で感じている明るい雰囲気や思いやりのある態度について、生徒からのアンケート結果に表れています。これも保護者の皆様、地域の皆様のご支援、ご協力の賜と感謝しております。残念ながら授業の理解や充実感、学ぶ楽しさの項目についての肯定的回答が減少してしまいました。来年度に向け、各教員が初心に戻って授業改善と生徒との良い人間関係づくりに向けて努力いたします。

今年度は感染拡大に留意しながらも学校行事を計画どおりに実施することができ、生徒たちは達成感を得ることができました。地域の皆様にご覧いただけなかったのは大変に残念ですが、ご理解いただけますようお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

折りにふれ、「自分で考え、進んで行動しよう」と生徒たちに呼びかけてきました。様々な取組をとおして自分のなすべきことを考え、発言し、行動してくれる生徒が増えてきたように感じています。この姿勢を認め、励ますことでさらに力を伸ばせる学校にして参りますので、さらなるご理解とご協力をお願いいたします。